

平成 29 年度沖縄県若年性認知症専門職研修会 石垣市開催 報告書

1 研修会名：「平成 29 年度沖縄県若年性認知症専門職研修会」

2 研修会日程及び場所

2017年10月22日（日）10時半～15時半（受付10時 開始）

会場 石垣市健康福祉センター 定員100名

3 目的：広く若年性認知症について啓発を行うと同時に専門職へ研修を行うことで、若年性認知症の一人ひとりがその状態に応じた適切な支援を受けられることを目的とする。

4 プログラム

	開始 時間	終了 時間	内 容	所要 時間	講 師
	10:25	10:30	オリエンテーション	5 分	中野（事業担当）
1	10:30	11:40	疾患の理解	70 分	丸野内暢彦氏（医師）
	11:40	13:00	休憩（昼食）	80 分	各自持参下さい
2	13:00	13:50	事例発表 ・ 本人の気持ち ・ 家族の思い ・ 支援者として	50 分	・ 当事者 ・ 家族 ・ 支援者
	13:50	14:00	休憩	10 分	
3	14:00	15:20	就労支援と県内の状況について（報告）	80 分	若年性認知症支援コーディネーター中野
	15:20	15:30	まとめ アンケート記入等	10 分	
	15:30		終了		

5. 広報 ：チラシ郵送 5/15 570 件

石垣市地域包括支援センターより F A X にて追加広報 9～10 月

申し込み締め切り 10/2（月）

申し込み者 82 名

6. 当日の様子 当日参加者数 66名

内訳	医療	4名
	介護保険事業所	39名
	行政	7名
	労働・企業	3名
	一般	4名
	家族	9名

7. 講義内容

疾患の理解 講師 丸野内暢彦 氏 神経内科医

現在：愛知県 高須医院（今後 石垣市内の医院で勤務予定）

「認知症とは」「若年性認知症とは」という基礎をはじめ、外来でフォローされる事例を通して、症状のみかた、服薬治療、経済的支援まで幅広い、若年性認知症のかたの支援についてケースを提示頂いた。

当事者発表

当事者 真栄里智明さん、支援者 前田盛えり子さん（地域包括支援センター）

58 才でアルツハイマー型認知症と診断される。介護保険は非該当、行き場のない状況であった。娘が地域包括支援センターへ相談し、支援が始まった。石垣市認知症初期集中支援チームも関わり、数ヶ月にわたるチームの関わりを紹介された。現在、就労継続支援B型事業所を利用される。働きたかったが、体力的に自信がなかった。今の働き方に満足されているという。

若年性認知症の県内の事情 沖縄県若年性認知症支援コーディネーター中野小織

平成 29 年 4 月 3 日より 9 月 30 日までの相談件数などのデーターをもとに、現状を報告。相談内容のほとんどは「利用出来るサービスについて」であり、若年性認知症のかたの行き場のない現状について情報を共有頂いた。経済的支援の例を紹介し、求められた支援者の役割について情報提供とした。

8. 研修資料について

テキストは『本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック（沖縄県）』

県内支援の例について一部配布

参加費は無料。

9. アンケート結果 回答 37 名 回収率 56.1%

問 本日の内容について感想を教えてください

	よかった	ふつう	よくなかった	無記入（部分的）
疾患の理解	67.6%	29.7%	2.7%	0%
当事者発表	67.6%	29.7%	0%	2.7%
県内事情	89.2%	8.1%	0%	2.7%

問 沖縄県の若年認知症の方々の支援が充実するために、今後、沖縄県若年性認知症支援推進事業で、どのような企画があると良いと思われますか

- ・ 認知症の症状がどの程度の方が就労できるかなどパンフレットがあってほしい。
- ・ 告知から支援が始まった例で初診の大切さを知ることが出来た
- ・ 当事者家族がもっと地域と関われる環境が構築できれば良い。

- ・八重山では専門医が少ないとお聞きしました。専門医との連携が取れて、地域の方が病気になっても安心して生活出来るように支援をしていきたいです。
- ・障害福祉→介護保険の移行は、家族の理解で難しいと悩んでいましたが、若年性認知症に限らず、支援の仕方を教えて頂いたので勉強になりました。
- ・申請の大切さなどわかりました。
- ・一般企業への研修が必要と思う。
- ・今日の事例を聞き、とても勉強になった。色んな県外の事も今後聞きたい。
- ・「相談会」などで、利用者だけでなく、事業所の方もできる会が必要と思いました。
- ・集中支援チームがあることを知らない人が多い。新聞などでみんなに教える必要があると思う。どこに相談していいのかで困っている人が沢山いると思う。
- ・家族さんの声が聞きたかった。
- ・早期という勧めがあるなか、自分はまだ認知症ではないと思っている方がまだまだ多い。市としても「認知症カフェ」が良いところとなる場をつくり、支援できるスタッフがいるとよい。「支援態勢のアピール」が必要。
- ・相談窓口を活用していきたい。経済的支援について、いろいろ勉強になりました。石垣市は疾患医療センターもなく、包括も1カ所です。利用者に直接関わる支援としてCM、障害の相談支援専門員さんに向けた若年性認知症の方への経済的支援の研修会があるといいと思います。
- ・本人さん、家族交流会を石垣でもやりたいです。
- ・同時ネット配信などで離島でも、いつでも研修会が受けられるようになると良いと思います。
- ・事業のことを知りませんでした。石垣でも当事者の意見や支援を聞いてみたいです。
- ・当事者の声をもっと聞かせてほしい。コーディネーターの配置を理解できた。関わり方を具体的に知ることが出来た。
- ・真栄里さんの穏やかな笑顔がよかったです。大城さんの時も勉強になりました。「働きたい」を支えている皆さんに学びました。
- ・施設に通っていない人も、若年性の方と各施設の職員などの交流会があれば、何かあった時の受け入れや行方不明になったときに役にたつと思います。又、施設選びにも役立つと思います。職員が直接、当事者と関わりを持つことで、経過もわかり信頼関係もできてから施設に通えるので良いと思います。沢山の方に会うことで地域の人にもわかってもらえんと思います。
- ・家族がいない方、遠方に住んでいる方がどのように相談していくか、窓口を広げて、相談しやすいように離島でも集まれる場所があったらいい。
- ・今日やった研修会でいろんな現状を知らせることが続けられたらいいと思います。
- ・一般向けの講演会→正しく理解してもらうために。誰もが参加出来る家族会の開催→未診断者でも気になる程度の方でも気軽に参加出来る方法で。
- ・当事者、家族、支援者が参加されての事例発表は良かったです。どんどんそのような企画があるといいと思います。
- ・医師にデイでの様子を報告しても処方は何も変わらない。島にいる先生方を主体に研修会を開催して頂きたい。
- ・支援するには今を支える経済の申請方法を理解することが必要と感じた。

10. 主催者側の所感

選挙で来られなかった行政の方もおり、また台風の余波もあったが、多くの方に参加いただいた。

今回登壇いただいた当事者は、地元の方で、石垣市より初めて認知症と公表されたかたであった。現在、就労継続支援B型事業を利用されている。そのイキイキとした表情が、支援のあり方についてヒントを投げかけていたと思われた。

以上